



## Vol.8 溝切り・中干し編

[2015.07.08]

植えた稲の茎が一定の本数まで分けつすると、溝切りと中干しが行われるようになります。中干しの適期は植えた時期によって異なります。

中干しの前に溝切りを行うと、その後の水管理が楽になります。水の通路ができることで入水・排水がスムーズになります。

刈取の直前まで水を張っておけるので、土中のカドミウムの吸収を抑えたり、白未熟粒や胴割粒が減ることにつながります。



▼溝切りの様子。最低でも10aに1本は溝を入れるよう推奨されています。

中干しの効果は主に以下が挙げられます。

- (1) 無効分けつ(穂の実らない茎)を抑制する
- (2) 根の張りをよくして倒伏を防ぐ
- (3) 土面を硬くして湛水管理を容易にする

60株植えでしたら、茎が17-18本まで分けつすれば中干しの適期とされています。



▼中干しは地面に弱いヒビが入る程度が適切とされています。



特別栽培米「日本晴」を栽培中の圃場。目印の立て看板が風景を飾ります。こちらの圃場で収穫した米は、柿の葉すし本舗「たなか」様に出荷されます。

